

令和7年度

『二十歳のつどい代表が市長と語る会』

報告書



©稲沢市いなッピー

令和7年11月27日（木） 午後7時～午後8時25分

稲沢市勤労福祉会館 第2、3研修室

○目次

市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

教育長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

二十歳のつどい代表による提案・要望

・ 1班「稲沢セーフティ・プロジェクト～未来へつなぐ安心の街～」・・・・ 5

・ 2班「稲沢市の健康に革命を」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

・ 3班「国府宮はだか祭の宣伝強化とブランドイメージ構築」・・・・・・ 8

・ 4班「稲沢市公共交通機関の発達」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

【稲沢市長挨拶】

本日は「二十歳のつどい代表が市長と語る会」に、お集まりいただきありがとうございます。

二十歳のつどい式典の司会進行や誓いの言葉、アトラクションの企画・運営について、数カ月にわたりご準備いただいておりますことに感謝を申し上げます。

今日は、稲沢市の未来に目を向けて、まちづくりのヒントとなるアイデアなどをお聞きしながら、皆さんと語り合えることを楽しみにしています。また、皆さんが今どのような夢を持ち、何を学んでいきたいかも聞かせていただきたいと思います。

さて、皆さんが育ってきたこの稲沢市は、今、皆さんの目にはどのように映っているのでしょうか。

私は市長として、「人にやさしく活力あるまちづくり」を実現するため、これからの社会を担っていく本日参加の皆さんはもちろん、稲沢市に住む全ての人のしあわせを実感できる市政運営を目指しています。

皆さんも、自分がどうなっていたいか、将来の自分という未来を思い描き、そのために何をすればよいかを考えて行動してみてください。情報を簡単に得ることが出来る時代の中で、自分の頭で考えるということは非常に大切なことです。今後も実行委員としての誇りをもって稲沢市がよりよくなるために様々なことを考えてほしいと思います。

皆さんのような若者が市の施策についてどんなことを感じているのか、本日この場で意見や提案を聞くことは大変参考になると思います。それでは、今夜の語る会が充実したものになりますよう、皆さん、よろしく申し上げます。

【教育長挨拶】

二十歳のつどい実行委員会の皆様、本日は「二十歳のつどい代表が市長と語る会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。私は、本市の教育長を務めております、渡辺 孝雄でございます。

皆様におかれましては、「二十歳のつどい」の企画・運営に、多大なご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。皆様は、「二十歳のつどい」という大きな行事を、単なる式典としてではなく、「自分たちの手で創り上げる、自分たちの未来への誓いの場」として企画されており、未来への希望を共有できる、思い出に残る二十歳のつどいにしていただければ幸いです。

本日の語る会におきましては、皆様が日頃感じておられる市政に対する率直なご意見や、より良いまちづくりに向けたご提言をいただけることを、大変心強く感じてお

ります。

現代は、VUCAの時代と言われております。V (volatility) (変動性)は、変化のスピードが速いことを指します。U (uncertainty) (不確実性)は、将来が予測できないことを指します。C (complexity) (複雑性)は、物事が複雑に絡み合っていることを指します。A (ambiguity) (曖昧性)は、因果関係が曖昧で明確な答えが見出しにくいことを指します。非常に課題が山積している時代です、例えばAIの進化や、人口減少が進むことに伴い、これからは「今まで」が通じない時代の中で、若い世代のみなさんが社会参画し、合意形成が必要になってきます。本日の懇談会が皆様の市政への関心を一層深め、未来を考える機会の一つとしていただければと思います。

皆様のこれからの人生が、夢と希望に満ち、充実したものとなりますよう心からお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

【二十歳のつどい代表自己紹介】

順に自己紹介

出身中学・氏名・二十歳となつての抱負

二十歳のつどい代表による提案・要望

【提案・要望：1班】

「稲沢セーフティ・プロジェクト～未来へつなぐ安心の街～」

安心できる環境、明るい街稲沢への第一歩として、以下の内容を提案する。

高校生の頃国府宮駅まで自転車通学をしていたが、この時感じたのは自転車を使っている人が少ないということだった。また以下の稲沢市の※アンケート結果から読み取れたのは公共交通機関や生活道路に改善の余地があり、稲沢市ホームページからは、駅周辺での開発や住宅建設など、駅を利用しやすい街づくりを計画していることであった。そこで今生活している地域を参考にして、もっと自転車が乗りやすい環境を作ることができれば朝方夕方の交通渋滞を緩和し、稲沢市の問題となっている駅の利用のしやすさを改善できると考えた。

そこで、①自転車を持っているがあまり自転車を利用していない人、②自転車を持っておらず自転車を利用していない人の両者にとって利益となる計画を考えた。

まず、①の人が自転車を使わない理由を自身の経験を基に考えると、道路環境が問題であると考えた。自転車の歩道通行が認められている歩道を運転する場合、歩行者が多い時間帯は運転しにくく、歩行者と接触しそうになることも多々あった。車道を通行する場合は、迷惑がかかっているような気がして、運転しにくく感じた。

次に②の人が自転車を使わない理由について考えた。まず自転車を買う必要がないと感じている人もいると思った。購入後の自転車の整備、修理、保管など、使用頻度の高くない人にとっては場所や手間がかかる。また駅からの距離があたり風が強かったりすると通勤、通学前に自転車を漕ぎ疲れてしまう人もいると思った。そこで、自転車で安全かつスムーズに走れるようにする道路整備と電動アシスト自転車のシェアサイクルの導入が良い解決策であると考えた。

まず道路整備として広い車道には自転車用レーンを設けること、狭い車道には車道の隅に自転車一台分の路側帯を表示することが有効であると考えた。こうすることで、自転車が走行しやすくなると考える。

また、シェアサイクルを市が導入することで、コストが少なく手軽に利用でき、健康維持や環境への配慮にも繋がると考えた。

安心できる環境、明るい街稲沢を実現するためにも前向きな検討をよろしく願いいたします。

項目	稲沢	小正	下津	明治	千代田	大塚西	大塚東	旭又は	平松
① 駅から離れた自覚場									
② 買い物の便利さ					○			○	
③ 鉄道やバス交通の便利さ				●	●	○		●	○
④ 幹線道路での移動のしやすさ									
⑤ 身近な生活道路の安全や使いやすさ				○	○	○	○	○	○
⑥ 歩道の安全や心地よさ	○	○		○	○	●	○	○	
⑦ 樹木や風景内の緑の多さ									
⑧ 歩いて行ける身近な公園									
⑨ 樹木や風景の風景の美しさ									
⑩ 地震や水害に対する備え	●	●	●	○	○	○	●	○	●
⑪ 避難場所や避難路の確保	○		○	○	○	○	○	○	○
⑫ 水や空域のきれいさ									
⑬ 商業や福祉施設の利用のしやすさ			○	○	○	○	○	○	○
⑭ 防犯面での安心感	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※アンケート結果

【回答：市長】

自転車の活用について、ご提案いただきありがとうございます。ご指摘のとおり、市民の皆さまが今よりも自転車を活用する機会が増えることで、渋滞の解消や駅活用の利便性、ひいては健康増進の一助になると認識しております。

さて、ご提案いただきました、自転車が通行しやすい道路整備についてですが、自転車専用道路の整備は、車道からの分離や道路用地の確保といった問題から全国的に進んでおらず、当市においても例外ではありません。しかしながら、提案にもありますように、自転車を安全かつスムーズに通行させることは交通安全上必要であると考えておりますので、今後、自動車や自転車の交通量が多い道路を設計する際には、自転車通行帯設置の要否について検討してまいります。

次に電動アシスト自転車のシェアサイクルの導入ですが、市民や市外からの来訪者が手軽に利用できる交通手段であり、バスや鉄道路線の補完をすることができると、近年では多くの自治体の実証実験を含め導入を進めているところです。少子高齢化が進行している本市としても、提案にあるような健康・環境への配慮といった観点から電動シェアサイクルの導入について、調査・研究を行ってまいりたいと考えています。なお、国府宮駅前にある民間事業者がレンタサイクルを行っていますので、ご紹介させていただきます。

稲沢市では簡単に専用道路を作ることは難しい現状です。新たな道路を作る際は今回の意見を参考に考えていきたいと思っております。多くが駅から離れたところに住んでおり、駅まで行く手段は自転車が多いため何かしら対応を考えていきたいと思っております。現在「自転車で繋ぐかわまちづくり計画」を他市町と進めております。サイクリングを楽しめる町にもなっていくのではないかと思います。

【提案・要望：2班】

「稲沢市の健康に革命を」

稲沢市の福祉を充実させるために私たちは令和6年9月の地域福祉についてのアンケートで、関心のある福祉分野として関心度が高かった子育て支援、高齢者支援について提案します。

地球温暖化により、年々猛暑日が増え屋外で活動することが難しくなっています。また、公園でのボール遊びや遊具の減少もあり、子どもの遊び場が減っているのが現状です。更に、アンケートでは60代以上の方が40%以上を占めており、地域の福祉課題からも十分に体を動かせる施設が必要とされています。

そこで子どもと高齢者向けの全天候型遊び場施設(屋内の遊び場だけでなく、公園等の屋外遊び場と屋内遊び場の複合施設)を作ることを提案します。これにより、気温や天候に左右されず体を動かすことが出来る上に、子どもの遊び場の確保や高齢者の方も体を動かせる機会が増えると思います。施設内には公園に設置されている遊具(滑り台、ジャングルジム、鉄棒等)をはじめ、ゲートボール、サッカーゴールなども設置し、さらにインクルーシブな遊びができる環境を設けることを考えています

まだ完成はしていませんが、全天候型遊び場施設の例として、富山県の「新川こども施設」は民間事業者が設計、建設、運営、維持管理を一括して行うPFI手法を導入して計画が進んでいます。

また、市内の小学生以下の子どもと60歳以上の方に限定する使用制限を設けたいと考えます。現在の屋内運動施設は民間人の利用が可能ですが、事前予約や料金が必要で気軽に利用することが難しいかもしれません。ですが、提案した施設は予約、料金不要で屋外の公園と同じように遊べる事を理想とします。

国の自治体の子育て世代を呼び込もうとしのぎを削っている中で、地域の魅力化・ブランド力向上等まちづくりの観点からも、全天候型遊び場施設は重要なコンテンツではないかと考えます。また、高齢者も利用できる施設を作ることによって多世代交流につながり、住民の満足度にもつながると考えます。

子育て世代を地方自治体に呼び込むための全天候型遊び場施設のデザイン | 日本総研 (jri.co.jp)

【回答：市長】

屋内で遊ぶことのできる施設への需要は高まっております。PFI手法については、結果的には市も負担する形にはなりません。無料で提供することになるといづらか市の

負担で事業者に払うこととなります。財政的にできるのであれば行っていきたくと思います。稲沢市のリーフウォークの中に「こどもっちパーク」があり民間の事業者が運営しております。そのような民間事業者とも連携を図っていきたくと思います。

財政的に非常に厳しく、新たな施設を建てるのが難しい状況となっており、場所の確保や施設の運営、財政面など課題は多いですが、今回いただいた提案も含め、あらゆる可能性を模索しながら、多くの市民に喜んでもらえるような施策を検討してまいります。

【提案・要望：3班】

「国府宮はだか祭の宣伝強化とブランドイメージ構築」

私は、稲沢市をさらに魅力あるまちへと発展させるため、特に「国府宮はだか祭り」を軸とした情報発信強化について提案させていただきたく、ここに意見をまとめました。

現在、東海地方においてはテレビ局による生中継で迫力ある映像が放送されております。しかし一方で、YouTube や Instagram、TikTok といった SNS では、祭りの魅力が十分に伝わっていない現状があります。現地で何度も祭りを体感してきた立場からすると、その神秘性と迫力を知る者として非常にもどかしく感じております。関西圏に住む私の周囲でも「はだかまつり」を知る人は驚くほど少なく、この認知度の差は稲沢市にとって大きな課題だと考えます。

特に「儼追殿入り」の瞬間は圧倒的な迫力を持ち、ドローンや高性能カメラなど最新の映像技術を駆使すれば、映像作品としても大変魅力的なものとなるはずですが、単に市の公式アカウントを立ち上げるだけでは情報の拡散に限界があります。現実的には、既に数多くのフォロワーを抱え、短尺動画で数百万回再生を獲得しているクリエイターに依頼し、彼らの発信力を通じて全国へ広めることが極めて有効であると考えます。現在の情報環境においては、短い映像が人々の関心を強く引きつける力を持ち、この手法は費用対効果の面でも現実的です。

さらに、祭り当日だけでなく、年間を通じた宣伝の仕組みづくりも重要です。例えば、稲沢駅や市内主要施設に「はだかまつりのまち」という統一的なデザインの広告やポスターを掲示し、市民や来訪者の目に日常的に触れさせることは効果的です。京都に住んでいると、祇園祭が数か月前から駅や街頭、電車内などで大きく取り上げられ、街全体で盛り上げようとする取り組みを実感します。稲沢においても、同様の仕掛けを整えることは「稲沢＝はだかまつり」という強いブランドイメージを育むうえで大変有効だと思えます。

私が目指すものは、単に観光客や参加者の数を増やすことではありません。むしろ、市民一人ひとりが「稲沢には誇るべきはだかまつりがある」と胸を張り、外の人々に紹介できるような環境を整えることです。市民の郷土愛を醸成することこそが、まち全体の魅力を底上げし、持続的な発展につながると確信しております。

「国府宮はだか祭り」には、まださらなる可能性が秘められています。最新の発信手法と市全体での盛り上げを組み合わせることで、稲沢市は全国に誇る「祭りのまち」としての地位をより確かなものにできると考えます。

【回答：市長】

コロナ禍をきっかけに、参拝客や参加者は減っております、クリエイターを通じた情報発信はもちろんですが、実行委員の皆さんのような若者がSNSを通してぜひ発信をしてください。はだか祭りは非常に長い歴史があり、はじまりは西暦767年といわれております。歴史のある祭りでも知名度も高く中継もされておりますが、テレビを見ない方も増えている中で、情報発信に工夫が必要であると感じております。国府宮神社と稲沢市が協力してPRをしなければならぬと考えております。郷土に対する愛着を育むためには、みなさんが祭りの様子をSNS等にあげたり、参加したりとシビックプライドを持った取組みを期待しております。

【提案・要望：4班】

「稲沢市公共交通機関の発達」

私たちは稲沢市をより発展させていくために公共交通機関の発達について提案があります。

稲沢市の国府宮駅や稲沢駅周辺は比較的電車やバスなどの公共交通機関が整っていますが、それ以外の特に千代田、祖父江、平和地区では家の近所にバスが通っていないか、駅まで遠かったり、交通がとても不便といった問題があります。これらの問題を改善していくことで、全体的に稲沢市の生活が快適になり、子育てがしやすくなり、定住する人が増えて稲沢市の人口増加などのプラスの効果が増えるのではないかと思います。

それらの問題を解決するために私たちは具体的な案を2つ考えました。

まず1つ目はバス路線の拡大です。稲沢市内バス路線を見ると祖父江、平和、千代田地区を走るバスが少ない事が分かります。そのため、新たにバス路線を前述の3つの地域に開発すれば駅までのアクセスが短縮され、通勤、通学がよりしやすくなるのではないかと考えました。自動車や自転車などのほかの交通機関で駅に行く方がバス

を使うよりも早いという声もあるかもしれませんが、停留所を3つの地区の人口が多い箇所に設置することで各地域から最寄り駅まで行くのに時短になり学校や職場に通いやすくなるのではないかと思います。

2つ目の案は祖父江、平和、千代田地区における自転車シェアサービスの設置です。駅までのアクセスや日常の移動を補完したり、観光に来た人や外から遊びに来たりする人たちの移動が楽になったり、目的地までタクシーを使わないことで排気ガスの量を削減することができるといったメリットがあると思います。シェアサイクルはバスとは違い、好きなときに利用できるので免許をまだ持っていない若者や健康を意識して運動したい人など幅広い層にとっても便利です。さらに、ショッピング目的の利用が増えることで日常的な需要が増えて稲沢市の経済を回し地域活性化にもつながるのではないかと思います。

このように稲沢市をより発展させていくために最寄り駅までの時間短縮のためのバスの路線拡大や幅広く使うことができる自転車シェアサービスといった公共交通機関を発達させて交通網を改善させるべきだと考えています。稲沢市の交通網の改善についてご検討よろしくをお願いします。

【回答：市長】

バス路線の拡大については、何度も様々な試行錯誤をしておりますが、コミュニティバスの乗車率は上がっていないのが現状です。一人あたりの市の負担額が1,500円を基準としており、現在は1,000円程度で収まっております。なかなか厳しい運営ではありますが、免許証を返納した高齢者にとっては車がないと移動手段がありません。自転車のシェアサービスについても、需要や利益、利用率を考えた際に稲沢市においては厳しいのが現状です。

さらに、運転手不足の課題もあり、バス路線拡大については現状では困難となっております。高齢者においては、おでかけタクシーを運行しておりますので、ぜひご活用ください。

今後も他市の先進的な取り組みを調査・研究し、幅広い視野を持ち本市の地域特性に合わせた地域公共交通を提供できるよう努めてまいります。